

みやぎNPO夢ファンド(A)組織開発(人材育成を含む)支援プログラム
平成20年度助成事業 最終報告書

2008年 12月 18日

団体名	仙台市森林アドバイザーの会	
事業名	森林整備技術習得プログラム	
連絡担当者お名前(ふりがな)	寺沢 信志(てらさわ のぶし)	
<p>助成金を使って行った研修事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください) 《回別実施報告書を添付しました》</p> <p>第一回 8月19日 9:30~15:00 青葉区水の森4-1-1 水の森市民センター 水の森市民センター会議室 参加者 22名 講師 柳原 昊氏(樹木医) 佐々木 勝義氏(宮城中央森林組合 業務課長補佐) (1) 人工林の健康診断法 (2) 広葉樹林の健康診断法 (3) 森林生態学 (4) 樹木学 ☆ 時間不足のため第六回講義で補うこととしました。</p> <p>第二回 9月3日(水) 午前の部・・・宮城中央森林組合会議室 9:30~10:30 ビデオ研修(伐木造材の基本技術) 10:40~11:30 チェーンソーの構造について 午後の部・・・太白区茂庭(宮城中央森林組合保管庫) 12:50~13:40 チェーンソーの分解・掃除・組み立て・目立て 13:50~15:00 班に分かれての実技</p> <p>☆ 参加会員17名 講師団 7名 → 4班に分かれて担当講師の指導で玉切り、水平切り、突っ込み切りの実習をしました。 実技講習は初回につきチェーンソー操作はオッカナビックリの様子で始まりました。</p>		



第三回 9月15日 9:30~15:10

場 所 仙台市太白区坪沼字愛宕山西
地内 41~42年生スギ林

参加会員 20名

講師団 7名

9:30~研修フィールドを提供していただいた山主・佐藤善一氏にこれまでの施行状況や山への想いなどをお話いただきました。佐々木キャップから本日のスケジュール、間伐の目的、造材の仕方などの説明があり、午前の部の最初に、安部講師による伐木・造材の実演が行われました。

☆ 伐倒方向の決め方が難しい。さらに伐倒方法が難しかった。受け口、追い口の切り方、ツルの残し方、クサビの使い方など・・・課題山積、緊張の一日でした。



第四回 10月13日 9:30~15:10

場 所 仙台市太白区坪沼字愛宕山西
地内 41~42年生スギ林

参加会員 17名

講師団 4名

A班の実習は、あえて掛かり木にしたものをどのように処理するかというものです。他の会員や新規会員を指導できるレベルまでの技術習得が課題です。

南班は玉切りが主たる実習でしたが講師の指導のもと順調に進められました。

『作業前作業手順の説明を再度受けた事が良かった』と班長コメント。



第五回 11月24日 9:30~15:10

場 所 仙台市太白区坪沼字愛宕山西
地内 41~42年生スギ林

参加会員 14名

講師団 5名

9:30ミーティング、準備体操のあとNo.1プロットをA班、中央班 No.2プロットを北班、南班に別れ今までの研修の総仕上げを実施しました。午後はフィールドを変えて行いました。

基本姿勢についてそれぞれの会員の“クセ”が直らなかったで講師から繰り返し指導を受け、今後の研鑽の積み重ねの重要性を痛感させられました。

14:40~総括ミーティング 講師の皆さんからそれぞれコメントがありました。

☆佐々木キャップからは「今回はチェーンソーによる伐木造材技術を重点に実施しましたが、森づくりの基本知識についても忘れないで研鑽をして欲しい」と。

☆千葉講師からは「仕上がりのイメージを持ってチェーンソーワークをして欲しい」。

☆山崎講師からは「慣れてくると基本を忘れがちになるが基本を忘れないで基本に忠実に」。

☆鈴木講師からは「チェーンソーの音が始めの頃に比べて軽くなってきた。日ごとに上手になってきています」。

☆安部講師団チーフからは「誘導伐採などでチェーンソーが挟まった時はチェーンソーに拘らずに退避すること。命が大事」。



第六回 11月29日 9:30~15:00

場所 仙台市泉区市名坂宮城中央森林組合会議室

講師 佐々木廣一氏（東北森林管理局森林整備部企画官）

参加状況 有料会員15名、無料会員2名、
7期生3名、その他2名



午前・・「森林造成・保育技術と植物生理学」

①伐採種②更新樹種の選定③森林造成④その他の施行⑤天然施行

午後・・「間伐等森林整備の低コスト化」

① 間伐等森林整備の推進と低コスト化②列状間伐の推進③間伐箇所の団地化④低
コスト路網整備⑤高性能林業機械の普及⑥木材需要の将来

☆ 質疑応答

☆宮城中央森林組合佐々木業務課長代理による6回にわたる研修の総括

当初の成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください。

●申請書に記載した成果目標

ア、 この研修により中堅作業員レベル
10名、作業班長レベル5名以上の
技術習得者を目標とする。

イ、 作業班長クラス者の養成により、
中堅作業員レベル会員のスキルア
ップと7期生以降の新入会員の指導が
可能となる。

ウ、 このことにより、先に依頼を受け
ている民有林の再生と管理を自信を
もって取り組んでいける。

エ、 連携する他団体へ班長クラスの指
導者として、あるいは中堅作業員と
して応援に出向けるようになる。

オ、 最も急を要する荒廃人工林の間伐
作業が安全で効率的に実施できるよ
うになる。

●目標の達成度・団体に与えた効果

ア) 達成度合い75%。中堅作業員コースは
18名参加し途中棄権2名、作業班長コ
ース5名参加した。

イ) 達成度合い100%。A班参加者5名に
ついては、会員への指導は可能レベルに達
した。

ウ) 達成度合い80%。プログラム実施以前
と比べれば格段の自信を持てるよになっ
たが、更に研鑽を続けて対応していきたい。

エ) 達成度合い80%。指導者としては更に
研鑽を積まなければならないが、中堅作業
員としては応援に出向けるようになった。

オ) 達成度合い80%。安全＝効率的という
観点からは安全作業が身に付いた。
しかし、造材のための伐倒等の技術にはま
だまだ及ばないことが判明した。

☆ 団体に与えた効果

①21名の会員が6回にわたる研修に参加
し、引き続き研鑽したいという意欲が向上
し共通認識を持つことが出来た。②里山管
理講習会、助成金申請書作成講習会などへ
の参加者が増え団体運営に関心が増した。
③習得技術を生かすための荒廃森林を確保
できた。④持続可能な活動の方向を探る「基
盤」となった。⑤他団体と協働で間伐作業
を実施できた。

●達成できない部分があった場合には、
考えられる原因や、解決に向けて必要なことをお書きください。

原因
当初班長クラス5名、中堅クラス10名の予定のところ参加者が8名増えて講師を増やしてもらったが結果的には1人当たりの実技実習時間を十分確保できなかった。

解決策
①旗立三丁目緑地において小径木の伐倒・玉切りの経験を積む。②箱倉山民有林において中径木の伐倒・玉切りの経験を積む。③機材を購入して訓練や作業実施環境を整える。④ロープワーク及びスナッチ使用法の訓練が出来なかったので早急実施する。⑤A班班長コース受講者に再訓練カリキュラムを作成してもらい適時・適宜に研鑽を図っていく。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか
また、その際に必要なものは何ですか
◎ 伐木・造材に関わる知識・技能の習得に取り組んだが、とてもとても奥の深いものであることが分かった。
(1) 当会のフィールドにおいて更に経験を積み重ねていく。
(2) 新しいフィールド(荒廃森林)をさがす。

今後必要なこと
(1) 班長コース受講者による指導を充実し技能と意欲の向上を図る。
(2) チェーンソーや刈払機などの機材を揃える。
(3) 機材の知識や伐倒技術の向上と併せ植生や森林生態の学習を継続する。
(4) 森づくり活動が持続可能となるよう組織の運営を工夫していく。

助成金の使途内訳(具体的に記入してください)

収入の部

項目	予算(円)	決算(円)	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	360,000	360,000	
参加費	45,000	69,000	3,000円×23人
自己団体の負担金	45,000	26,848	
合計	450,000	455,848	

支出の部

項目	予算(円)	決算(円)	備考
宮城中央森林組合委託支払い分	366,000	366,000	
施設借用料	10,000円	3,150	
機器燃料・オイル	10,000円	10,440	
チェーンソー保険料	37,960円	34,380	
通信費印刷費他雑費	26,040円	41,878	
合計	450,000	455,848	